

地域活性化に向けた取り組み  
—厚田に美しい胸壁ペイントを—

石狩湾漁業協同組合女性部連絡協議会 厚田地区女性部  
吉田 美香

## 1 地域の概要

私たちの住む石狩市厚田区は、西側には日本海、東側には円錐峰（えんすいほう）・安瀬山（やすすけやま）・望来山（もうらいさん）を望む、南北に長い石狩市の中央部に位置している。（図1）

石狩市は、旧浜益村、旧厚田村、旧石狩市の3つの自治体が平成17年10月に合併して発足した。厚田区には厚田漁港での朝市を始め、夕日の丘と呼ばれる観光スポットがあり、冬は海からの贈り物として、波が海岸に押し寄せてできる「波の華」が見られるなど、魅力あふれる地域である。

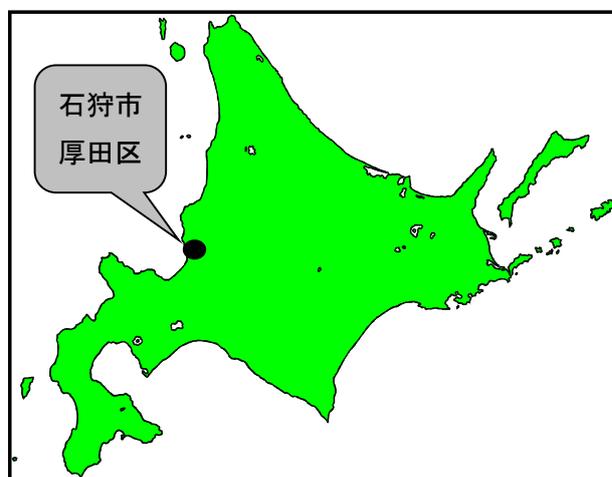
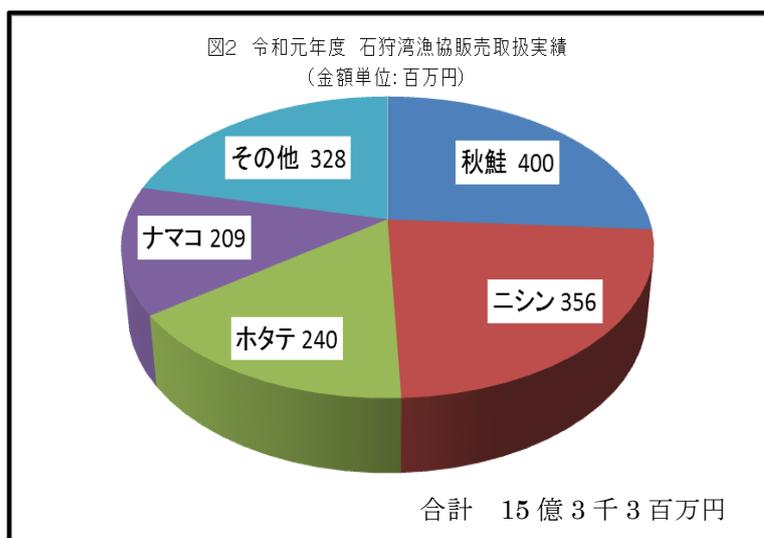


図1 石狩市厚田区の位置

## 2 漁業の概要

私たちが所属する石狩湾漁業協同組合は、市町村合併前年の平成16年に旧石狩・厚田・浜益の3漁協が合併して誕生し、令和元年12月末時点で正組合員110人、准組合員2人の計112人で構成されている。

当組合の主要魚種は、秋鮭、ニシン、ホタテ、ナマコで令和元年度の販売取扱数量は3,586トン、金額は15億円とな



っており、9月より始まる秋鮭漁や1月からのにしん漁にかけては着業者も多く、浜が活気にあふれる。(図2)

### 3 女性部の組織および運営

私が所属する厚田地区女性部は、3組合の合併により「石狩湾漁協女性部連絡協議会厚田地区女性部」として再結成され、現在の部員数は28人となっている。

今年は新型コロナウイルスの影響により中止となったが、例年朝市では、地元の海産物を使用した「ふれあい鍋」を提供している。この鍋は毎回具材を変えて販売しており、さけ鍋やあんこう鍋にしたり、またたこめしとぎんなん藻の味噌汁をセットにして販売した年もある。朝市に来られる方たちには大変好評でいつも完売である。その他、厚田ふるさとあきあじ祭りや地元の墓地公園でのコンブやホタテの販売、6月の「春・JF女性連ふれあい運動」での積立貯金の推進や海浜清掃、10月の「全道漁協みな貯金運動」での定期貯金の推進なども行い、組合運営に協力している。

### 4 実践活動取組課題選定の動機

私たちは、今まで朝市でのふれあい鍋や道女性連主催の料理教室への参加などの魚食普及活動と、貯蓄推進を中心に活動してきたが、「もっと厚田の浜を明るく、元気にしたい。厚田の魅力をPRして、朝市を盛り上げ、厚田の魚介類を皆にもっと知ってもらいたい。そのために女性部だからこそできる、女性部らしい取り組みは無いか」との思いが強くなっていた。そんなときに、漁港の防波堤の胸壁が目に入ってきた。漁に出るときや組合に行くときなど普段なにげなく目にしている灰色の胸壁である。日常的に女性部員の中では「胸壁はコンクリートできていて、暗いイメージを浜全体に与えている」との意見があった。そこで、もしこの胸壁をペイントで明るいものに変えることができれば、浜全体も明るい雰囲気になるのではないかと、そしてペイントで明るくなった漁港をアピールできれば、厚田に足を運んでくれる人が増え、隣接する朝市で水揚げされた海産物を買ってもらうきっかけにもなり、厚田の良さと厚田の海産物のおいしさを広めることができる。さらには朝市での売上の一部は手数料として組合の収入にもなることから、組合に対しての協力にもなるのでは、と考えた。

### 5 活動状況及び成果

#### (1) 活動状況

本ペイント事業は平成28年、29年の2年をかけて厚田漁港の旧西側防波堤に文字と花柄などのペイントを施すところから始め、平成30年には同漁港内の北護岸胸壁に、私たちが思い描く厚田の明るい海をイメージしてホタテやタコ・カレイなどの魚のイラストのペイントを施した。胸壁にペイントするという前例のないこの事業は、完成までに3年を費やし、経験の無い私たちにとってはとても長い道のりであった。

まず、北海道の所有物である漁港の胸壁にペイントを施すには北海道の許可が必要だった。その許可を取る際に、担当者から「地域活性化」の補助金制度があることを聞き、この取り組みが対象になると**分かった**。本事業を行うに**当たって**経費の面で不安があったため補助があることは大変助かった。また、塗装作業をするに**当たり**担当者より塗装業界発展のために設立された団体である北海道昭和会を紹介してもらい、昭和会を通じて学生を中心としたボランティアの協力も得られることになった。その後、女性部・北海道昭和会・北海道の間で作業日程や参加人数の**打ち合わせ**を行ったが、日程調整には大変苦労した。さらに、女性部員の中には高齢で参加することが難しい人や漁に出なければいけない人もおり、十分な人手を確保することが難しくなり作業の遅れが発生するのではないかと不安もあった。しかし、全員がペイントを完成させるという一つの目標に向かいながら取り組んでいくことで一体感や作業の楽しみを見つけることができた。

作業工程を紹介すると、はじめに胸壁の清掃を行って汚れを落とした後、下地調整と下塗り及び中塗りを行って真っ白なキャンバスを作成した。次に、背景を上から白→薄い水色→やや濃い水色の3層になるよう塗装を施した後、プラスチックダンボールで作った型枠を図面を見ながら壁に貼り、鉛筆で下書きを行った。下書きの後はいよいよ色塗り作業である。細かい部分への色塗りもあり丁寧な作業が必要だった。失敗が許されない作業だったので緊張感があった。最後は、ペンキが乾くのを待ってから、微調整を加えて完成した。(図3・図4)



図3 旧西側防波堤での作業様子



図4 北護岸胸壁での作業様子

暗いイメージを与えていた胸壁を自分**たち**の手で明るいものに変えようと、図面を一つ一つ形にしていく作業には**何物**にも代えがたい達成感があり、女性部員同士の一体感が強くなったと改めて感じた。(図5・図6)



図5 集合写真



図6 ペイント完成後の厚田漁港

## (2) 成果

ペイントを施し漁港内に白を基調とした美しい胸壁が生まれたことによって、これまでの浜全体の暗いイメージが払拭（ふっしょく）され、明るい雰囲気のある漁港にすることができた。

さらに、朝市に来てくれたお客さまがペイントを施した胸壁を見てくれるだけでなく、皆さんが写真を撮ってSNSを通じて広めてくれたおかげで、たくさんの人たちがペイントを見に来ようと厚田に足を運んでくれるようになった。

準備から作業まで慣れないことが多く大変だったが、ペイントを見てくれた人たちが朝市に足を運んでくれた際に「きれいだね」「見に来てよかった」などと声を掛けてくれたことが大変うれしく、「ペイント事業をやってよかった」と心から感じた。

## 6 波及効果

ペイントを施したことによりほかの漁港では見られないオリジナルなものを地域に残すことができた。観光で訪れてくれる人だけでなく、地域の人たちも見に来てくれたりすることも多くなった。

さらに、ペイントした胸壁がポスターの写真として使われたり、水産系の雑誌にも掲載されたりするなど、私たちの活動が厚田のイメージアップにつながり、全道に厚田の魅力を発信することができていると感じている。

## 7 今後の女性部活動について

ペイントは漁港の胸壁に描いているので浜風や雨などで風化や劣化をしてしまう。平成30年、令和元年と補修を行ったが、今後も定期的な補修を行って美しいペイントを保ちながら、厚田のためにも明るい胸壁を守っていききたい。また、朝市や地元のイベントだけではなく他地区でのイベントにも参加し、多くの人たちにもっと厚田の海産物を知ってもらえるようPRをしていきたいと考えている。